

科目ナンバリング		G-LAS14 80001 LJ50							
授業科目名 <英訳>		生命科学キャリアパス Career Paths in Life Sciences				担当者所属 職名・氏名		生命科学研究科 教授 片山 高嶺	
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	キャリア形成系			使用言語	日本語	
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2025・ 前期集中		曜時限	集中 火3-4限		配当学年	大学院生	対象学生	理系向
（生命科学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）									
[授業の概要・目的]									
生命科学領域の博士の進路は、アカデミックな研究者、バイオ関連企業における高度実務者、知財専門家、起業家、官公庁の行政専門家など多様である。本講義では、各分野で活躍する講師が提供する生命科学のキャリアに関する話題をもとに、生命科学分野の博士学位取得後のキャリア選択肢を広げ、社会で活躍する博士のイメージを具体化する。博士学位取得後の能動的なキャリアパス設計能力を身に付ける。									
[到達目標]									
受講学生は講義中での議論を通じて、科学（医学・生命科学・農学等）を学んだ博士が活躍する各キャリアを深耕し、必要なスキル・要件を理解できるようになる。社会のなかの科学の位置づけを理解し、自身の研究や習得した能力を有効に活用するキャリア設計ができるようになる。									
[授業計画と内容]									
7月1日 担当講師：仙石慎太郎（東京科学大学） 「博士の多様なキャリアパスと求められる能力」 PhD (Philosophiae Doctor, Doctor of Philosophy)とは元来、特定の分野における専門性ではなく、学術研究に従事する者の資質の証です。すなわち、与えられた研究課題の着実な遂行だけでなく、研究課題を構想する能力、学術的で質の高い「問い」（リサーチ・クエスチョン）を設定する能力、分析的アプローチをもとに「問い」に答える能力、その為に必要なプロジェクトマネジメント能力やコミュニケーション能力、更にこれらの能力を最大限に発揮するためのリーダーシップ・フォロワーシップが含まれます。そして、これらの資質は他の分野のプロフェッショナルにも共通であることから、キャリア機会は研究職に限らず、多様な広がりをもっています。本講義では、PhD/博士の歴史を振り返りつつ、上述のスキル・リーダーシップ要素について解説したうえで、博士課程におけるキャリア形成と展望への意味合いを議論します。									
7月8日 担当講師：綾部達宏（キリンホールディングス株式会社） 「企業での博士号取得と博士の働き方」 本学農学研究科修士課程を修了後に民間企業での研究開発に従事し、論文審査により博士号（農学）を授与いただきました。学位取得を進める中でさまざまな方にご指導いただき、真摯に研究や科学と向き合うことの重要性に改めて気づかされました。そして、そのような博士に求められる能力、持つべき心構えは課程博士でも論文博士であっても同じだと感じています。自身の経験をもとに、企業での研究活動や、どのように学位を取得したかについて、最近の研究成果とともにご紹介します。また、博士号取得者は民間企業で何を期待され、どのように活躍しているか、主観にはなりますがお話したいと思います。									
7月15日 担当講師：早川卓志（北海道大学） 「研究対象の生き物を求めて世界一周」 ゲノム生態学という、野生生物のフィールドワークをベースとして、ゲノム科学の研究をする分野を専門としています。霊長類研究所で博士号学位（PhD）を取り、同研究所での特定助教を経て、生命科学キャリアパス(2)へ続く↓↓↓									

生命科学キャリアパス(2)

北海道大学で研究室を主宰することになりました。大学院時代にはアフリカでチンパンジーの研究を、特定助教時代はオーストラリアでコアラの研究を、そして北大では南米のブラジルでマーモセットとオポッサムの研究を始めました。南半球三大大陸という壮大なスケールで研究をさせてもらっているのは、相手国のカウンターパートの方々からの支援があってこそですが、PhDを持っているかどうかは信頼関係の形成に大きく影響します。そして海外のフィールドに通い続けるには、継続的なポストと研究費が必要です。フィールドワークの魅力を紹介しながら、どのように研究環境を維持してきたかについてお話しします。

7月22日 担当講師：澄田智美（国立研究開発法人海洋研究開発機構・主任研究員）

「研究職でのキャリアチェンジ#12316ライフステージに応じた多様な選択肢#12316」

研究に関わる仕事には、研究者だけでなく技術員、研究補助員、研究事務員など、さまざまな職種があります。私は当初、博士課程への進学を考えていましたが、修士課程を修了後、まずは大学や公的研究機関で研究技術職に就くことを選びました。その後、社会人特別選抜を経て博士後期課程に進み、学位を取得しました。博士号を取得した後も、複数の研究機関や大学で、研究員としてだけでなく、時には研究補助員や技術員など、ライフステージに応じてさまざまな働き方を選択してきました。本講義では、これまでどのような状況で職場やキャリアを変更し、またそれぞれの職種でどのようなスタンスで研究に関わってきたのかについて紹介したいと思います。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

出席および講義中の議論への参加、またレポート提出で評価を行う。原則として、全講義への参加とレポート提出を必須とする。体調不良や学会参加等でやむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。事前に連絡なき場合は欠席とする。

【教科書】

使用しない

講師によっては講義資料を配布予定。

【参考書等】

（参考書）

三浦有紀子、仙石慎太郎『博士号を取るときに考えること 取った後できること』（羊土社）
ISBN:978-4-7581-2003-6

【授業外学修（予習・復習）等】

各講師の授業概要を読み、議論に備えること。

【その他（オフィスアワー等）】

様々なキャリアを有する講師の方々の生の声を聞くことができる良い機会ですので、博士課程進学を考えている修士課程学生の履修も歓迎します。

コーディネーター（片山）の連絡先は、katayama.takane.6s@kyoto-u.ac.jpです。レポート提出はPandAにて行ってください。

【主要授業科目（学部・学科名）】